

## 行列の転置

- 行列  $A$  の行と列を入れ替えた行列を「 $A$  の転置行列」といい、 ${}^tA$  と書く。

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix} \xrightarrow{\text{転置}} \begin{pmatrix} a_{11} & a_{21} & \cdots & a_{m1} \\ a_{12} & a_{22} & \cdots & a_{m2} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{1n} & a_{2n} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix}$$

- ${}^tA$  の第  $j$  行は、 $A$  の第  $i$  列。
  - ${}^tA$  の第  $i$  列は、 $A$  の第  $j$  行。
  - $A$  が  $m \times n$  型ならば、 ${}^tA$  は  $n \times m$  型。
- $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$  に対し、 $\langle \mathbf{a}, \mathbf{b} \rangle = a_1b_1 + a_2b_2 = {}^t\mathbf{a} \mathbf{b}$ 。
- ${}^t({}^tA) = A$  を満たす行列  $A$  を対称行列という。
- ${}^t({}^tA) = -A$  を満たす行列  $A$  を交代行列という。

クォータ科目「数学」第10回（担当：佐藤 弘康）1/5

## 逆行列（1）

- 正方行列  $A$  に対し、

$$AB = BA = E$$

を満たす行列  $B$  を、「 $A$  の逆行列」といい、 $B = A^{-1}$  と書く。

- 【2次正方行列の場合】 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  に対し、 $A^{-1} = \begin{pmatrix} x & z \\ y & w \end{pmatrix}$  とおくと、

$$\begin{aligned} E = AA^{-1} &\iff \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x & z \\ y & w \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} ax+by & az+bw \\ cx+dy & cz+dw \end{pmatrix} \\ &\iff \begin{cases} ax+by=1 \\ cx+dy=0 \end{cases} \quad \text{かつ} \quad \begin{cases} az+bw=0 \\ cz+dw=1 \end{cases} \end{aligned}$$

2つの連立方程式を解くことにより、 $A^{-1} = \frac{1}{ad-bc} \begin{pmatrix} d & -b \\ -c & a \end{pmatrix}$  を得る。

クォータ科目「数学」第10回（担当：佐藤 弘康）2/5

## 逆行列（2）

- $A$  が正方行列ならば、必ず逆行列  $A^{-1}$  が存在するだろうか？
  - 零行列の逆行列が存在しないことは明らか。
  - 行列  $\begin{pmatrix} 1 & -1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix}$  の逆行列は存在しない。

**事実**  $AB = O, A \neq O, B \neq O$  を満たす行列  $A, B$  は逆行列を持たない。  
 $\therefore A^{-1}$  が存在すると仮定。  $AB = O$  の両辺に左から  $A^{-1}$  をかけると、

$$B = EB = (A^{-1}A)B = A^{-1}(AB) = A^{-1}O = O$$

となり、 $B \neq O$  の矛盾する。（背理法）

- 正方行列  $A$  の逆行列が存在するとき、 $A$  を正則行列とよぶ。
- 【2次正方行列の場合】 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  が正則  $\iff ad - bc \neq 0$

クォータ科目「数学」第10回（担当：佐藤 弘康）3/5

## 逆行列（3）応用例：連立方程式の解法

- （前回）連立方程式は  $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$  と表すことができる。

ただし、 $A$  は係数行列、 $\mathbf{b}$  は定数項ベクトル。

**事実**  $A$  が正方行列、かつ正則（つまり、 $A^{-1}$  が存在）のとき、 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$  の解は  $\mathbf{x} = A^{-1}\mathbf{b}$  によって与えられる。

$\therefore A\mathbf{x} = \mathbf{b}$  の両辺に左から  $A^{-1}$  をかけると

$$\mathbf{x} = E\mathbf{x} = (A^{-1}A)\mathbf{x} = A^{-1}(A\mathbf{x}) = A^{-1}\mathbf{b}.$$

クォータ科目「数学」第10回（担当：佐藤 弘康）4/5

## 行列の例（3）

(6) 基本行列：3種類の特別な正方行列

- $A(i, j : c)$  :  $(i, j)$  成分が  $c$  で、他は単位行列と同じ。
- $P(i, j)$  :  $(i, j)$  成分と  $(j, i)$  成分は 1,  $(i, i)$  成分と  $(j, j)$  成分は 0, 他は単位行列と同じ。
- $M(i : c)$  :  $(i, i)$  成分が  $c$  で、他は単位行列と同じ。

— 行列の基本変形 —

基本行列  $M$  を行列  $A$  に左（右）からかけた行列  $MA$  ( $AM$ ) は、 $A$  の

- 第  $j$  行（第  $i$  列）の  $c$  倍を第  $i$  行（第  $j$  列）に加えた行列
- 第  $i$  行（列）と第  $j$  行（列）を入れ換えた行列
- 第  $i$  行（列）を  $c$  倍した行列

クォータ科目「数学」第10回（担当：佐藤 弘康）5/5